

チモテオ後書序言

本書をしたためた機会および目的　前書およびチト書を送ってから形勢は一変してパウロはロマで更に囚徒となり、弟子たちは、あるいは布教に遣わされ、あるいは自分から離れ去って、パウロはほとんど一人とり残されて、徹底的に患難を味わいつつあった。こうして一度は法廷に立つて訴訟は延期されたものの、パウロは日を経ないで再び出廷し死刑に処せられることを確信したものである。それでさすがに胸が迫ってエフェゾにいた最愛のチモテオに再び書簡を送り、マルコと一緒にロマに来ることを求めるとともに、生きて面会することがおぼつかないことを推し計って遺言を述べ、当時の形勢は最も困難であったが雄々しくこれに堪えて、相当の助力者を選択すべきことをチモテオに勧め、かつ教務を妨げるはずの特別の危険をも予防させようとしたものようである。

本書の題目および区分　本書の最大部分はチモテオの教授、および司教としての処置に関する教訓を含み、最愛の弟子を励まして、彼を感化し、また彼が教えねばならないことをかかげ、信仰の宝を保存させるために彼の精神を一新しようとした。本書は抑揚頓挫よくようとんざがあつて論理的には区分しにくい、大体二編に分けられる。第一編は個人的訓戒であつて、福音のために恐れることなく忠実に戦わねばならぬことを忠告し（一章一節～二章十三節）、第二編では偽教師が信者に及ぼす危険を述べ、屈することなく、よくこれに抵抗すべきことを勧める（二章十四節～四章八

節)。終わりに末文があつて、種々の忠告、種々の音便、および最後の挨拶を含んでいる。なお詳細は目次について見ること。

本書をしたためた場所および年代 本書をしたためたのはパウロがロマの獄中にあつて、まさに殉教しようとした時、すなわち、およそ紀元六六年の末か、あるいは六七年の初めであろう。

使徒聖パウロ チモテオに送りしのちの書簡

冒頭

1 **第一章** 挨拶 1 神のおぼしめしによりキリスト・イエズスにおける生命の約束に従いてキリス
 2 ト・イエズスの使徒たるパウロ、2 至愛の子チモテオに「書簡を送る」。願わくは父にてまします
 神およびわが主イエズス・キリストより恩寵と慈悲と平安とを賜わらんことを。

第一編 福音のために恐れなく戦うべし

第一項 キリストに忠実ならんことを勧む

3 チモテオの信仰に対する感謝 3 わが祖先以来、清き良心をもって奉事せる神に感謝し奉る、
 4 けだし昼夜祈祷のうち絶えず汝を記念し、4 汝の涙を追想して、喜びに満たされんために汝を
 5 見んことを欲す、5 これ汝にある偽りなき信仰の記憶を持てるによりてなり、この信仰は先に汝
 の祖母ロイズと母ユニケとに宿りたれば、汝にもまたしかあることを確信す。
 6 福音のために雄々しかるべし 6 このゆえに、わが**按手**によりて汝のうちなる神の賜ものを更

7 に熱せしめんことを勧告す、7 神のわれらに賜いたるは、憶^{おく}する靈にあらずして、能力と慈
 8 愛と節制との靈なればなり。8 さればわが主に対する証明と、その囚人たるわれとに恥ずること
 9 なく、神の能力に依じて福音のために、われとともに苦を忍べ²。9 神のわれらを救い、かつ聖な
 る召しをもつて召し給いしは、われらの業^{わざ}によれるにはあらず、御自らの規定^{きぎてい}により、またイエ
 10 ズス・キリストにおいて世々の以前よりわれらに賜いたる恩寵^{おんくわう}によれるなり。10 この恩寵は、今
 わが救い主イエズス・キリストの現われ給いしによりて証せられたり、すなわち彼は死を滅ぼし、
 11 福音をもつて生命と不朽^{ふきゆう}とを明らかにし給いしなり。11 われはこの福音のために立てられて、宣
 12 教者たり、使徒たり、異邦人の教師たり。12 またこれがためにかかる苦しみを受くといえどもこ
 れを恥とせず、そはわが信頼し奉れる者のたれなるかを知り、かつわれに委託^{いたく}し給いしものを、
 かの日まで保ち給う力あるを確信すればなり。

13 委託^{いたく}せられしものを保存すべし 13 汝われに聞きし健全なる言葉の法^{のり}を守るに、キリスト・イ
 14 エズスにおける信仰と愛とをもつてし、14 委託^{いたく}せられし良きものを、われらに宿り給う聖靈によ
 りて保て。

15 墮落者、忠実者の例 15 「小」アジアにある人々の、みなわれを離れしことは汝の知るところに
 16 して、フィゼロとヘルモゼネスとそのうちにあり。16 願わくは主、オネジフォロの家にあわれみ
 17 を賜わんことを、けだし彼はしばしばわれを励まし、⁵ わが鎖^{くさり}を恥ずることなく、17 ロマに來りし
 18 時、せつに尋ねてわれを見出だせり。18 願わくは主、かの日⁶において、彼に主よりあわれみを得
 させ給わんことを、彼がエフェゾにおいてわれを厚遇^{こうぐ}せしことはいかばかりなりしかは汝のなほ

よく知るところなり。

①ラテン訳では恩寵。②ラテン訳では助力せよ。③ラテン訳では輝き。④ラテン訳では輝かしめ。⑤ラテン訳では冷やし。⑥審判の日の意。

第二項 労苦にかかわらず勇気をふるうべし

第一章

1 聖職者は絶えず雄々しく励むべし 1 さればわが子よ、汝キリスト・イエズスにおける

2 恩寵にいよいよ堅固なれ。2 さて、あまたの証人の前にわれより聞きしことを他人に教うるに足
3 るべき忠実なる人々に託せよ。3 キリストの良き軍人としてともに苦を忍べ¹。

4 三つのたとえ、4 軍人は生活³のこともっておのれをわずらわさずして、つとりし者の心を得
6-5 んとす。5 また勝負を争う人は規定に従いて争わざれば冠^{かんむり}を得ず。6 辛勞^{しんろう}する農夫はまずその産
7 物を得ざるべからず。7 わが言うところを悟れ、主は万事につきて汝に悟りを賜うべし。

8 キリストの例 8 ダヴィドの末にまします主イエズス・キリストが、わが福音のままに死者の
9 うちより復活し給いしことを記憶せよ、9 われはこの福音のために苦しみをなめて悪人のごとく
10 鎖^{くさり}につながるに至れり。しかれども神の御言葉はつながれず、10 ゆえにわれは選ばれたる人々
のためには万事を忍ぶ、これ彼らをしてイエズス・キリストにおける救^{たすかり}霊と天の栄光とを得しめん
ためなり。

11 キリスト信者の業^{わざ}の報い 11 眞実の話なるかな、われらキリストとともに死したるならば、ま

12 たともに生くべし、12 忍ばばまた彼とともに王となるべし、われらもし彼を否まば、彼もまたわれらを否み給うべし、13 われらは信ぜざることにありとも、彼は絶えず真実にてまします、そはおのれにたがい給うことあたわざればなり。

第二編

ひゆうせつ ききよう 謬説と棄教とを防ぐべし

第一項 謬説に対する処置

14 偽教師に対する義務 14 汝、人々をしてこれらのことを思い出ださしめ、⁵ また主のみ前に保証して口論することを戒めよ。⁶ 口論は何らの益するところなく、聞く人をして滅びに至らしむるのみなればなり。15 汝、神のみ前において鍛練したる者、恥ずるところなき働き手、真理の言葉を正しくあつかえる者たらんことを努めよ。16 世俗の無駄話を避けよ、⁷ けだしこれをなせる人は大いに不敬虔に進み、17 その話の広がることは脱疽のごとし、^{だつそ} ヒメネオとフィレトとそのうちにあるりて、¹⁹⁻¹⁸ 復活はすでにありき、と、となえて真理を脱し、ある人々の信仰をくつがえせり。19 されど神のすえ給いし堅固なる土台立ちて、⁸ その上に次のごとくしるされたる印章あり、^{いんしやう} いわく、「主はおのれのものを知り給う、⁹ またいわく、「すべて主のみ名をとらうる人は不義を離るべし」¹⁰ と。20 そもそも大いなる家のうちには金銀の器のみならず、^{うっわ} また木と土との器ありて、あるものは尊き用をなし、²¹ あるものは卑しき用をなす。21 されば人もし、かの人々を離れておのれを清く

せば、尊き器、聖とせられかつ主に有益にして、すべての善業のために備われる器となるべし。
 22 チモテオの処置 22 汝、若氣わかげの欲を避けて、義と信と愛と11を求め、また清き心をもって主を呼
 び頼み奉る人々との和合を求めよ。

23 争論を避くべし 23 されど愚ぐにして無学なる探究12は、これ争論を起すものなりと悟りてこれ
 24 を避けよ。24 主のしもべは争論すべきにあらず、かえっていっさいの人に柔和にして、よく教え、
 25 かつ忍耐し、25 真理に逆らう人々を戒むるに謙讓けんじょうをもってすべし。あるいは真理を悟らしめんた
 26 めに神彼らに改心を賜い、26 彼らはいつしか目を覚まして悪魔のわなをのがるることあらん、そ
 は彼が、まにまにとりことせられたればなり。

① ラテン訳では働け。② ラテン訳では神のために戦う者。③ ラテン訳では世俗の。④ ラテン訳では働きて。⑤
 ラテン訳では、さとせ。⑥ ラテン訳では口論することなかれ。⑦ ラテン訳では、その話は。⑧ 教会の意。チモ
 テオ前書3・14と16 ⑨ 民数紀略16・5 ⑩ 民数紀略16・26、イザヤ26・13 ⑪ ラテン訳では信望愛。⑫ ラテン訳で
 は問題。

第二項 教会の危険の要求

2-1 **第二章** 危険まさに来らんとす 1 汝これを知れ、末の日ごろに至りて困難1の時あるべし。2 人
 々おのれを愛し、利をむさぼり、おごり高ぶりののしりて、親に従わず、恩を知らず、聖ならず、
 4-3 3 情なさけなく、和らがず、ざん誘ほうし、節制なく、温和ならず、善を好まず、4 反逆、横柄おうへい、傲慢ごうまんにし
 5 て、神よりも快樂を愛し、5 敬虔の姿を有しつつ、かえってその実じつを捨すつることあらん、汝、彼
 6 らをも避けよ。6 そのうちには人の家にくぐり入り、女どもをとりこにしていざなう者あり、こ

8-7 れらの女は罪を負い、さまざまの欲に引かれて、7 常に学べども真理の知識に達せず、8 あたかもヤンネスとマンプレスとがモイゼに逆らいしごとく、⁵ この人々もまた真理に逆らい、精神腐敗して信仰のすたれたる者なり。9 されど彼らはなおこの上に進むことなかるべし、けだしその愚かなることの衆人に明らかなるは、かの二人においてありしがごとし。

11-10 奨励となるべきことを回想せしむ 10 汝はわが教え、行状、志、信仰、忍耐、慈愛、堪忍、11 受けし迫害にも苦しみにもよくこれに従えり。われアンチオキア、イコニオム、およびリストラにおいて、かかることに会い、その迫害を忍びたりしが、主はすべてこれらのうちより、われを救い出だし給いしなり。12 すべてキリスト・イエズスにおける敬虔をもって世を渡らんと決せる⁶ 人は迫害を受くべく、13 また悪人および人を欺く者はいよいよ悪に進みて、自ら迷い人をも迷わすに至らん。

14 堅固になる法 14 しかれども汝は学びしこと、確信せる⁷ ことに留まれ、そはいかなる人々⁸ よりこれを学びしかを知り、15 また幼少より聖書を知ればなり。すなわち聖書はキリスト・イエズスにおける信仰をもって汝を救霊^{たすかり}のため^{けんせき}にさとからしむることを得。16 聖書はみな神感によるものにして、教授するに、勧告するに、^{けんせき}譴責するに、正義において教育するに有益なり。17 これ神の⁹人の全うせられて、すべての善業に備えられんためなり。

① ラテン訳では危険なる。 ② ラテン訳では罪人にして。 ③ ラテン訳では慈恵なく。 ④ ラテン訳では徳。 ⑤ 出エジプト記7・11 ⑥ ラテン訳では欲する。 ⑦ ラテン訳では汝に託せられし。 ⑧ ラテン訳では人(母)、祖母をも言うのであろう。 ⑨ 聖役者の意。

1 **第四章** 重大なる願い 1 われ神のみ前、また生者と死者とを裁き給うべきイエズス・キリスト
 2 のみ前において、その公現¹とみ国とに対してこいねがう、2 汝、御言葉を述べ伝えて、時なるも
 時ならざるも、しきりに勧め、忍耐をつくし、教理をつくして、かつ戒め、かつこいねがい、か
 3 つおどせ。3 けだし時至らば、人々健全なる教えに堪えず、耳かゆくして、私欲のまにまにおの
 5-4 がために教師をたくわえ、4 耳を真理にそむけ、身を寓言^{くうげん}にゆだぬるに至らん。5 されど汝は慎
 しみて、²万事をしのぎ、³福音師の業^{ぎょう}をなして、おのが「聖」役をつくせ。
 6 パウロはすでに任務をつくせり 6 けだし、われはもはや供え物に注がれ、⁴去るべき時期切迫
 8-7 せり。7 われ良き戦いを戦い、走るべき道を果たし、信仰を保てり。8 残るところは正義の冠^{かんむり}、
 わがために備われるのみ、正しき審判者にてまします主は、かの日においてこれをわれに賜うべ
 く、しかも一人われのみならずして、その降臨^{こうりん}を愛する人々にも賜うべきなり。

結 末

9 早く来らんことを願う 急ぎてわがもとに来れ、9 けだしデマスはこの世を好み、われを捨て
 11-10 てテサロニケに行き、10 クレゼンスはガラチアに、チトはダルマチアに行き、11 ルカ一人われと
 ともにあり。汝、マルコをさそいてともに来れ、そは彼は「聖」役のためにわれに益あればなり。
 12 12 チキコはわれこれをエフェソに遣わせり。
 13 依頼 13 汝、来る時、わがトロアデにてカルポの家に残しおきたる上着^{うわぎ}と書き物と、殊に羊皮紙^{ようひし}

とを持ち来れ。

15-14

音信おとずれ

14 鍛治屋アレキサンデル大いにわれを悩ませり、主はその業わざに応じて報い給うべし、15

16 彼は、はなはだしくわが言葉に逆らいし者なれば、汝もこれに遠ざかれ。16 わが初めの弁護の時、われに立ち会う者一人もなく、みなわれを捨てたり、願わくはその罪を彼らに帰せられざらんことを。17 されど宣教がわれをもって全うせられ、すべての異邦人の聞かんために主はわれとともに18 に立ちてわれを堅固ならしめ給えり、かくてわれは、しの口より救われたるなり。18 主はわれをいっさいの悪業よりのがれしめ給い、⁵ なおその天国において、われを救い給うべし、主に世々光榮あれかし、アメン。

20-19

伝言

19 プリスカとアクイラとオネジフォロの家とによろしく伝えよ。20 エラストは⁷ コリント

21 に留まりしが、トロフィモは⁸ 病ありて、われこれをミレトに残せり。21 冬に先立ちて⁹ 急ぎ来れ、ユウブロとプデンスとリノとクロオディアとすべての兄弟と、汝によろしくと言えり。

22

祝禱 22 願わくは主、汝の霊とともにましまし、恩寵汝らとともにあらんことを。

- ① 再臨の意。② あるいは節制せよ。③ ラテン訳では働け。④ 供物(くもつ)に酒を注ぐ風習があったことは、フィリップ書2・17に見たとおりである。パウロがキリストのために血を流して犠牲に供せられるはずのことを、これにたとえたのであろう。⑤ ラテン訳では給えり。⑥ 使徒行録18・2、ロマ書16・3、コリント前書16・19 ⑦ 使徒行録19・22 ⑧ 使徒行録20・4、21・29 ⑨ 使徒行録27・9、28・11